

日刊 労働千葉

82.10.25
No.1178

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二五八・九・(公衆電話)22七二〇七

10.11 三里塚闘争に 参加して

感想文
特集
最終回
よるん

三里塚に始めて参加して――

津田沼支部(十九才)

十月十一日、自分達は雨の中寒いおもいをして現地へおもむいた。自分にとっては、初めてだったのでどんな組合がどれ位くるのか見当もつかなかった。行って見たら、考えていたよりも多かったのが驚いた。そして、動労千葉支援の旗がいっぱいあってうれしく思った。各組合ごとに意見がちがっていたが、よくわからなかった。また、青年部定期委員会の資料を配って見たが、いろんな反応があってもよかった。

デモ行進中に飛行機をみたが、騒音のうるささに、地元の人達は大変だろうと実感した。次回も津田沼支部検修は全力でがんばります。

国労の仲間とのスクラムに感激

津田沼支部(三九才)

雨の中集会に参加した。今日は動労千葉も数が多い。久しぶりの四五〇名。雨だから人が来ないと思ったら、集会場も人で一杯だ。

革マルや政府の反対同盟破壊攻撃に対し、満場が怒りのうずとなっていた。本場に三里塚は決戦だという雰囲気はヒシヒシと感じられた。

私の所にも革マル「解放」が送られてきた。奴らのデモは毎度のことながら本場に頭にくる。デモのとき、国労の仲間が共に隊列を組んで、デモをしたのには本当に感動した。

もっと仲間を増やして、戦争や国鉄攻撃に反撃しなければと決意を新たにしたい。

問題を克服してこそ発展する

新小岩支部(五十才)

三里塚闘争十七年の重みか、最近の反対同盟の中でも労働組合にもある、いろいろな問題や悩みが出て来ていると思わ

れる。もっともこれで大衆運動とは何か知れると思う。どこの労組、単組でも悩み、問題を克服してこそ発展するのであって、問題はないと思う。労組連三千五百名と、国労の百五十名は、運動の前進であり、確実に三里塚闘争勝利はまちがいない。

今回の参加が一番感動!

新小岩支部(四十才)

私は、十・一一集会に参加して(数回しか出ていないが)今回の参加が一番感動しました。

それは、あの雨をもものともせず、大部隊が最後までカン然と闘い抜いたこと、そして、本部方針を実践したのだから当然であるとしても、動労千葉が四五〇名そしてそれに続いて国労から一五〇名もの仲間が結集していたことは、この闘いが、着実に根を張り、輪が広がっているということ、自らの目で確認出来たからであると思いません。

参加してよかった

幕張支部(四十才)

十一日朝、明け目が覚めたら雨が降っていた。まさか雨とは思わなかった。普通段の格好である。正直いって集会に行くかどうか迷ったが、意を決して仲間と千葉駅へ向う。千葉駅で館山や勝浦の先輩者と会う。さぼらなくてよかったと思いが、成田へ向った。

成田は動員者で一杯である。幕張の仲間も五〇〇六〇名いる。

関川委員長があいさつし、「闘いはピクニックでない」といわれ、そうだなと思っ

た。現地も思ったより参加者が多く、ずぶぬれになりながら、熱気でムンムンしていた。参加してよかったと思います。こうしたやる気が、合理化や行革を粉碎していく源泉だと確信した。

一歩も後にひけない闘い

銚子支部(三四才)

十・一一、雨の降りしきる中、続々と成田運転区に結集する各支部の仲間達からは、雨にも負けない熱気と緊迫感が感じられた。われわれの闘いも三里塚の闘いも、挑まれたものであり、一歩も後にひけない闘いである。

この団結力をもって、これからの闘いに勝利していこう。

頑丈な砦を築こう

一人一人が確信をもって――

佐倉支部(二二才)

悪天候にもかかわらず、全国から一万三千五百人もの人々が結集し、三里塚闘争が日本帝国主義へのあらゆるたたかいの中心軸となつていて痛感させられた。一人一人が怒りに燃えることは、もちろん必要だが、全体がうまくまとまらなければ決して良い結果はでない。すぐれたリーダーのもとに、それぞれの能力が十分に生かされてこそ軍事大国化―改憲を打ち破る大きな力となり、頑丈な砦を築くことができるのだと思う。

とかくシラケた若者が多いと言われるが、職場は自分の人生の中で、大きな部分を占めるものであって、シラケてなどいられないのだ。結局、問題を解決するのは第三者ではなく、自分でやるより仕方ないことで、本気になってぶつかってゆく時こそ必ず道が開かれることを一人一人が確信を持つてつきすすむことが大切なのではないだろうか。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!



「反対同盟は健在なり」主催者を代表してキッパリと声高に宣言する熱田一行動隊長(右)の闘争